

国家の動揺と鎮護国家

藤原氏の血を引く聖武天皇は、次期天皇に光明子（藤原不比等の娘）との子を望まれた。しかし、聖武は男児に恵まれず、不安は増すばかりであった。また、聖武の不安は個人的な問題に限らず、流行病・信頼する人物の反乱という社会的不安もあった。このような国家の動揺に、聖武は仏教の力による安泰を試みた。

○藤原氏の野心と懸念—元正天皇の代

●新たな律令の準備

718年、⁽¹⁾ _____ が中心となって⁽²⁾ _____ を編纂した。

⇒(2) は大宝律令をほぼ継承し、また、この時点では編纂のみで施行されなかった。

●不比等の子女

< 4人の息子 >

不比等の息子には、**武智麻呂**（南家の祖）・⁽³⁾ _____（⁽⁴⁾ _____ の祖）・⁽⁵⁾ _____（⁽⁶⁾ _____ の祖）・**麻呂**（京家の祖）、以上4兄弟がいた。

◇4兄弟の子孫はそれぞれ「～家」と区別



図1 藤原宇合



図2 藤原房前



図3 藤原武智麻呂（前）・麻呂（後）

< 2人の娘 >

不比等の娘には、**宮子**・⁽⁷⁾ _____ がいた。

→文武天皇と宮子の子（後の聖武天皇）に、**叔母**の光明子が嫁いだ。

⇒藤原氏は皇族と血縁関係を結び、藤原氏の血を引く子孫の即位を望んだ。

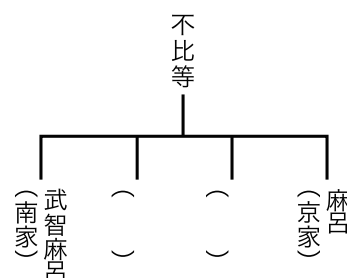


図4 藤原4兄弟

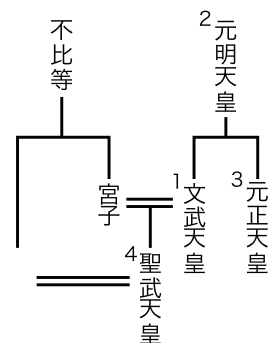


図5 系図（番号は即位順）

●警戒される人物登場

不比等の死後、⁽⁸⁾ _____ が政治の中心（太政官のトップ）に躍り出た。

→(8) は天武天皇の孫で、皇太子（聖武）を血縁的に上回り、皇位継承もあり得た。

⇒(8) は、皇太子（聖武）の即位を望む藤原氏から非常に警戒された。

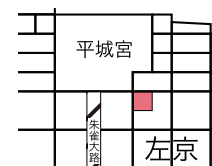


図6 長屋王邸（色塗り）

●口分田の開墾計画

人口増加のため、口分田が足りなくなった。

⇒722年、「⁽⁹⁾ _____」を発表した。

Q. 百万町歩の広さはどのくらい？

A. 1万km²（＊現在の日本の農耕地は4万5600km²）

723年、⁽¹⁰⁾ _____（別称：養老七年の格）施行

①灌漑設備（溝・池）を設けて田地を開墾した場合は、3世（本人・子・孫）の間の私有を許可

②既にある灌漑設備を利用して田地を開墾した場合は、1身（本人）だけの私有を許可

⇒期限を過ぎれば、開墾した田地は国家が収公して口分田に充てる。

○動揺する国家—聖武天皇の代

●4兄弟の警戒

⁽¹¹⁾ _____ 天皇の即位後、藤原氏は(11)の妻光明子を皇后にすることを望んだ。

◇皇后…夫の死後に天皇に即位できる立場なので、従来は皇族出身者のみ許可



729年、⁽¹²⁾ _____

…藤原氏が長屋王に反乱の疑いをかけ、自殺に追い込んだ事件

⇒長屋王に代わり、藤原4兄弟が政権を握り、光明子を皇后にした。



図7 聖武天皇

●流行病—社会的不安①

天然痘が流行し、藤原4兄弟が相次いで病死した。

⇒藤原氏を抑え、⁽¹³⁾ _____ が政権を握った。

●反乱—社会的不安②

橘諸兄は遣唐使であった僧⁽¹⁴⁾ _____ と⁽¹⁵⁾ _____ を重用した。

⇒(14)は聖武に近づき、権威を利用したので人々から反感を買った。



740年、⁽¹⁶⁾ _____

…藤原広嗣(宇合の子、式家)が(14)(15)の排除を求めて挙兵した反乱



橘諸兄(684～757年)

橘諸兄は、もと皇族で葛城王と称した。母の氏姓を継ぐことを許され、皇族から臣下に転じた。

●聖武天皇の動揺

社会的不安①②から、聖武は仏の力で国家を安定させる⁽¹⁷⁾ _____ に努めた。

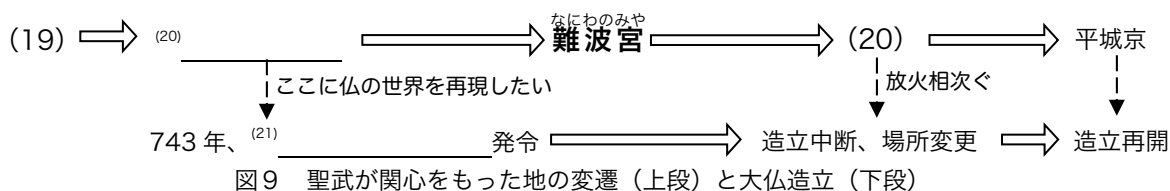
<寺院の建立>

741年、聖武は⁽¹⁸⁾ _____ を発して、諸国に国分寺・国分尼寺を建立させた。

<遷都計画と仏像の建立>

藤原広嗣の乱を機に、橘諸兄は聖武に⁽¹⁹⁾ _____ 遷都を勧めた。

⇒遷都決定後に聖武の関心は別の地に移り、やがて都は平城京に戻された。



●三世一身法の見直し

灌漑設備を新たに作ることは大変で、大半の開墾地が一代限りの所有であった。

⇒開墾した本人の死が近づくと、人々は収公される開墾地を手入れしなくなった。

⇒荒れた田地を国家が収公しても意味がない。



743年、⁽²¹²⁾ _____

⇒田地を開墾すれば、永久的な私有を認めた。

⇒豪族・寺院は開墾に力を入れ、大規模な田地⁽²²⁾ _____ を形成した。